

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立 120 年周年を迎える歴史を有する本校の役割は、生徒・保護者・地域・社会のニーズに応じた生徒の進路実現を図り、地域・社会に有為で未来を拓く人材を育成することにある。「グローバル・リーダーズ・ハイスクール（GLHS）」と「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」としての責務を理解し、さらに充実した教育活動の展開を図る。
■ 育てたい生徒像： ○岸高生の誇りと高い志を持ち、主体的な学びができる爽やかで骨太の生徒 ○チャレンジ精神に富み、将来、リーダーとして、未来を拓きグローバルに活躍する生徒
■ 目標とする学校像： 「すべての教育活動を通じ、生徒・教職員がともに、主体的な学びで成長する学校（学びの時空間）」をめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力・グローバルリーダーの育成 次期学習指導要領を見据え、教育課程を軸にした「カリキュラムマネジメント」を行うことで、高い志と確かな学力を併せ持ち、チャレンジ精神に富む、豊かな未来社会を拓く『グローバルリーダー』を育成する。(1)(2)の取組で、グローバルリーダーとしてのコンピテンシー（資質・能力）：英語運用力や未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」、チャレンジ精神を育成する。 (1)生徒の持つ力を最大限に引き出す ア いわゆるアクティブラーニングの視野での授業「主体的・対話的で深い学びの授業」に取り組み、多面的・多角的学習評価を行うことで、未来型の確かな学力の育成をめざす イ 授業目標や学ぶ意義を「岸高スタンダード」として各教科で共有し、授業公開週間や教員研修等で、教科横断した学校組織としての授業改善に取り組む ウ 土曜日を活用した講習・学習指導など、教科学習を補完する活動をさらに充実する ※生徒向け授業アンケートの項目 8「授業に興味・関心を持つことができた」と項目 9「知識や技能が身についた」H28 学校平均（3.06/4点満点）を 3 年後に、3.15 以上にする ※すべての教科科目で、観点別学習状況の評価を導入し、教科特性に合わせてルーブリック評価やCan - doリストなど学習の明確な指標を示す (2)グローバルリーダーズハイスクール（GLHS）・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）としての学力向上や高い志に係る内容の充実を図る。 ア 英語運用力の向上。TOEFL 仕様の授業の導入等により、英語4技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく身につけさせる イ グローバルリーダー養成プログラム等の外部連携の取組を活用し、海外大学生や高校生とのディスカッション・プレゼンテーションを推進する ウ 地域協働や外部連携等により、SSHやGLHSの活動を深化、普及する エ TV会議システム、タブレット端末等、ICT機器の活用を図る ※TOEFL iBT チャレンジテストのスコアを3年後、ステージ 2（対象人数の10%以上が80点以上、20%以上が60～79点）をめざす (3)「朝読」（読書活動）を奨励する 2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み 充実した学校生活の結果として「進学」を捉え、進学実績のみを求めるのではなく、生徒が主体的に考え、それぞれのキャリア（将来像）の実現を図れるよう、学びに向かう力・人間性を涵養する。第1志望を貫き「入りたい大学」合格をめざす！ (1) GLHS、SSH事業を活用して3年間を見据えたキャリア教育を実施する ア 興味関心を高める体験的キャリア教育を体系的に行う（生徒のハートに火をつける体験） イ 場の力を活用して主体的に学びに向かう力を育み、モチベーションを喚起する (2) 国公立大学志望90%以上という生徒の進路希望の実現をサポートし、海外の大学への進学にも対応する ア 低学年（1年2年）での学習習慣、時間管理能力を確立する イ 進路指導部が主導する進路指導ホームルーム計画や進路指導の取組をさらに充実する ※国公立大学進学者の合格者数を3年後に60%以上、あわせて難関大学（東大・京大・阪大・神大・旧帝大など）の受験者増をめざす ※（生徒向け）学校教育自己診断における進路指導の満足度80%以上を維持し、3年後に90%以上をめざす ※海外大学進学者を1名以上をめざす 3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み 主体的に参加する学校行事・部活動等の充実した学校生活こそが、卒業後の力の源になることから一層の充実を図る。また、グローバルで幅広い視野や互いを尊重するところ、コミュニケーション力を持ち、多様な人々と協働して自ら未来を拓けるよう、豊かな感性や体力や健康を育む。 (1)学習とクラブ活動・学校行事の両立への意識を高める ア 学校生活の主体的な取組みを充実する イ クラブ活動の奨励とクラブ活動を核にしたリーダーを育成する ウ 社会人としてのマナー、人権意識、主権者意識を醸成する (2)メンタルサポート体制を充実させる 教育相談室(教育相談&支援教育)を充実し、支援の必要な生徒に合理的に配慮する (3)多様性を感じる体験や異文化理解によるグローバル教育を推進する ※（生徒向け）学校教育自己診断における学校行事やクラブ活動の満足度90%以上とクラブ活動参加率90%以上を維持する ※（生徒向け）学校教育自己診断における国際（理解）教育の満足度80%以上を維持し、3年後に90%以上をめざす 4 地域・保護者との連携と社会参加・社会貢献 SSHの成果・GLHSの活動等や学校情報を地域や保護者に積極的に情報発信する。危機管理やワークライフバランスの視点を持ち、地域協働による学びを通して、社会参加・社会貢献の意識を醸成する。より安全で安心に学べる学習環境の構築をめざす。 (1) 学校情報を収集し、地域や保護者に情報を発信する (2) 地域を中心とした社会参加・社会貢献に取り組む (3) 安全で安心な学習環境を維持する ※（保護者向け）学校教育自己診断における情報提供の満足度 90%以上を維持する
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔平成〇年〇月実施分〕	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
目標	(1)生徒の持てる力を最大限引き出す	ア	ア	
1 確かな学力の育成・グローバルリーダーの育成	「主体的・対話的で深い学びの授業」と学習評価	・アクティブラーニング（AL）の視点での授業やICT機器の授業活用した授業に全授業担当者が取り組み、CAN-DO リストや観点別評価を導入し、多面的・多角的な評価に努める。 ・「生徒による授業評価」を7月、12月に実施し7月の結果をもとに授業改善シートで改善点を各自明らかにして授業改善に活かす（継続）	生徒による授業評価における項目8「授業に興味・関心を持つことができた」と項目9「知識や技能が身についた」の学校平均が（4点満点）3.10以上（H28は3.06） ・全教員がALかICT活用の取組を1回以上行う	
	イ 授業目標の共有、授業公開週間、教員研修	イ ・「岸高学びのスタイル」を作成し教科目標を担当者が共有し、生徒の進路実現を図る。 ・教科別に公開授業週間を設定し、互いの授業見学し授業力向上に努める。また、全教科で研究授業を行い、研究協議の時間を持つ。 ・教員研修や学校視察の機会を持つ	イ 学校教育自己診断における「授業力向上のための取組み」の項目の肯定的回答80%以上を維持する（H28は84.8%）	
	ウ 土曜日の活用	ウ ・土曜の午前は、生徒の「学習タイム」とし、「特進ゼミ」や、サポート講習、SSHやGLHS等の活動を行う（クラブ活動等は午後から）	ウ 学校教育自己診断において、土曜の学習タイムを有意義に過ごしている、。50%以上をめざす	
	(2)GLHS・SSHとしての学力向上や高い志	(2)ア ・SETによるTOEFL仕様の授業をはじめ、英語の4技能を鍛え英語運用力を向上を図る取組を行う。TOEFL iBTや英語能力試験を校内実施する。	(2)ア TOEFL iBT 練習テスト 2年の10%60点以上 70%40～59点 ・1年文理学科は、英語能力試験受験者数160名	
	ア 英語運用力向上			
	イ 外部連携の取組とリンガ・フランカ交流	イ ・【グローバルリーダー養成基礎】生徒全員が姉妹校（台湾）とリンガフランカ交流で、多様性を理解し協働や英語運用力の重要性を体得する。 ・【グローバルリーダー養成プログラム（校内版）】留学生招聘実施 【グローバルリーダー養成プログラム（海外大学版）】カリフォルニア大学パークレー校実施。グローバルな視野でキャリア（将来像）を考え、英語運用力やチャレンジ精神、コミュニケーション力、プレゼーション力等を鍛える 【イマージョンプログラム（オーストラリア）】をさらに充実させる	イ 参加満足度 90%以上	
	ウ TV会議システムやICT活用	ウ ・サイエンスカフェ等のSSHの取組などで、TV会議システムを利用して、海外の研究者等との英語での交流を行う	ウ 年に 1回以上実施	
	エ 「思考力・判断力・表現力」の育成	エ ・文理学科に「文理課題研究」を新たに設けるなど、3年間連続して課題研究に取り組み、地域協働による学びを奨励し、外部との連携で内容の深化を図り、コンテストやコンクール、オリンピック、外部での参加や発表を促す ・普通科に「総合的な学習の時間」の活用や外部と連携等で「サイエンス探究」など、課題研究の普及に努める。	エ ・コンクール、オリンピックの参加者数50名以上 ・サイエンス探究参加者5名以上	
	(3) 「朝読」（読書活動）を奨励する	(3) ・「MY FAVORITE BOOKS」（教員や生徒たちの推薦書物冊子）の発行する ・各ホームルームに備付の「朝読用文庫」の定期的な入替を行う	(3) ・年 1回 発行する ・学期ごとに入替を行う	

2 高い志をはぐくみ、 進路実現をめざす取組み	(1) G L H S、S S H 事業を活用して 3年間を見据えたキャリア教育を実施する	(1) ・「グローバルリーダー人材育成プログラム」(H29年度用)で、3年間を見据えたキャリア教育を実施する（継続）	(1) ・4月までに改定し配布
	ア 体験的キャリア教育の体系化	ア ・卒業生による職業講話や、大学教授等の出前講義、SSH 講演会などの機会をできるだけ多く提供し、将来について考えさせる（継続）	ア ・学校教育自己診断の講演会等の質問項目の肯定的な回答が80%以上
	イ 場の力を活用	イ ・東大・京大・阪大等のキャンパスツアーを実施する ・国内、海外の研究室の見学、サイエンスツアーなどを奨励する	イ ・学校教育自己診断の特色のある教育活動等の質問項目の肯定的な回答が80%以上
	(2) 国公立大学志望 90%の進路実現	(2) 第1志望の「入りたい大学」をめざし、国公立大学に、合格できるよう生徒が学習できるように、学校として支援する（継続）	(2)アイの取組の結果として ・国公立大学合格者数が(現浪合わせて)160人以上 （8クラス規模）
	ア 学習習慣、時間管理能力の確立	ア 1年次から、主体的な学習習慣を確立し、学習時間の確保により、学力を向上し、高い志での進路実現ができる生徒集団を育成する ・「岸高手帳」の導入により時間管理能力を育成する ・土曜日の学習タイムをさらに充実するような方策や指導を検討する(生徒の実態調査による分析と対策) ・卒業生チューターの活用を行う ・学校休業日の学習スペース（ゆうかりホール）を提供する ・長期休業期間の効果的な講習を（外部講師の活用も含む）提供する ・3年ゼロ学期（2年12月）を徹底し、受験生宣言やPT（東大・京大・医学部の希望者集団への個別指導）を行う ・3年生対象集中勉強会（勉強合宿）を実施する	・(保護者向け) 学校教育自己診断結果における進路情報の満足度の90%以上を維持
	イ 進路指導ホーム ルーム計画充実	イ ・3年間を見越した進路ホームルームを実施する ・模試の情報提供と事後指導を行い、学力の向上を図る（ICT 機器やNet 環境の活用も含め） ・進路通信（生徒向け）を発行する ・模試分析会や進路検討会を行い、学校全体で情報の共有し、全教員が進路指導力の向上に努める。 ・進路実現プロジェクト（3年12月上旬）受験生応援プロジェクト（12/31）の実施により、センターテスト・2次試験への取組意欲の喚起と頑張りぬく精神力を育む ・生徒、保護者への進学説明会の充実と海外大学進学説明を実施する	イ 海外大学の説明会を1回以上開催

3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取り組み	(1) 学 習 と ク ラ ブ 活 動・学校行事の両立 ア 学校生活の充実 イ クラブ活動の奨励 クラブ活動を核にしたリーダー育成 ウ 社会人としての 人権意識・マナー の醸成 (2)メンタルサポート体制を充実させる ア 教 育 相 談 室 の (教育相談＆支援教育)充実 イ 支 援 の 必 要 な 様々な生徒への 合理的配慮 (3)多様性を感じる体験や異文化理解によるグローバル教育を推進する。	(1) ア ・遠足・文化祭・体育祭・鍛練遠足・合唱コンクール等行事への生徒の主体的な取組を支援する ・岸校グッズにより自己肯定感を高める イ ・クラブ活動への入部を奨励する (継続) ・クラブ活動振興のため社会人講師の活用する (継続) ・外部講師を招聘したメンタルトレーニングや理学療法的な講演会をクラブ部員中心に実施し、健康を自己管理する能力を高め、高い志の下、活動において良い結果を出せるよう取り組む ・学習とクラブ活動両立の良い事例の共有やリーダー性を高めるためのリーダー研修をクラブ代表者を対象に実施する ウ・地域貢献や主権者としての社会参加意意識、人権意識の涵養と生活マナーの向上と ・いじめ防止やネチケツト、LGBT 等、人権教育の推進のための教職員や生徒への研修の実施する (継続) ・挨拶運動や交通マナー指導をはじめ、定期的な遅刻や服装指導を実施 (継続) ア ・再編整備した教育相談室(教育相談＆支援教育)の円滑な運営を行う ・教育相談室への、生徒・保護者・教職員の利用をすすめる ・教育相談室が、教職員の意識・スキル向上のための研修の計画およびその実施する ・外部のカウンセラーを定期的に活用し、精神的ケアの必要な生徒・保護者・教職員に適切な支援を行う (継続) イ ・様々な状況の生徒の教育的ニーズに応じて、適切な支援する ・必要に応じて福祉や医療など外部機関と連携 ・キャリア教育(大学卒業後の就労支援に向けた配慮など)を検討する (3) ・海外視察校の受け入れる (継続) ・姉妹校との相互交流を深化する	(1) ア ・行事アンケートの満足度の把握し、満足度 80%以上維持 (H28 は、82.9%) イ ・クラブ活動入部率 90%以上を維持 ・講演会参加者数 200 名以上 ・リーダー研修を 1 回以上 ウ ・総遅刻数を 2,000 回以下を維持。 ・社会科を中心に計画的に主権者教育実施 (2) ・教育相談室会議を各学期に 2 回定例会議を持ち、その他随時に対応。 ・生徒、保護者、教職員向けに相談日より「オアシス」の年間 5 回以上の発行およびその内容の充実 ・年間 1 回以上の研修 ・スクールカウンセラーとの情報交換会の学期 1 回実施 イ．相談室会議において、教育的ニーズのある生徒への支援に知恵を講じる。必要な生徒を把握するごとに行う。 (3) ・海外からの訪問校を 3 校以上招致	

4 地域・保護者との連携と環境整備	(1)情報を収集し、地域や保護者に情報を発信する。	(1)情報発信 ア ・本校 Web ページの「岸高アーカイブ」(科目・部活動の課題研究成果)「SSH ブログ」「教育コレクション」「校長ブログ」などを通して本校の教育活動の広報を推進する ・文化祭や体育祭、生徒研究発表会の保護者や地域に公開する (継続) イ ・学校Web ページのスマホ対応など一新する ・メールリングリストにより情報発信する (継続) ・「岸高レター」保護者や中学校対象に発行する (継続) ・120 周年記念行事とリンクした広報活動を行う ・学校案内の一新を行う	(1) ア、イ ・(保護者向) 学校教育自己診断結果における情報共有満足度 90%以上 (保護者向) 学校教育自己診断結果における「国際交流SSHなどの特色ある教育活動」80%以上 ・メールリングリストの各週末送信を維持 ・「校長かわら版」(ブログ)の更新を月 20 回以上の維持 ・岸高レター 2 回以上維持	
	(2)地域を中心とした社会参加・社会貢献に取り組む	(2)社会貢献の実践を学び、社会貢献について考えさせるGLHS講演会の実施する ア ・地域の幼稚園との計画的なサービスラーニングを実施する ・近隣の幼稚園との1年を通じた交流する イ ・地域貢献の継続推進、岸高桜祭の開催する、 ・近隣の幼稚園との防災教育・共同避難訓練を行い、近隣の住民との防災教育を通した意見交流を行う ・公開食育講座を実施する	(2)講演会を1回以上 実施 ア・地域の幼稚園との交流を各学期ごとに1回、年3回以上実施 イ ・岸高桜祭の来校者 200 人以上を維持 ・近隣幼稚園との防災教育、共同避難訓練を2回以上 ・近隣小学生、卒業生を招いた食育、クッキング教室の開催を年3回以上実施	
	(3)安全で安心な学習環境を向上し、校内環境整備を継続する。	(3) ・津波や地震に対する避難経路や場所の見直しと避難訓練など、防災意識の強化する ・ノークラブディ、全校退庁日を設定し、その目的を理解し順守する	(3) ・防災マニュアルの見直しと情報共有を6月までに実施	